

空想の森 映画祭

〈会期〉2019年

9月14日(土)→16日(月・祝)

〈会場〉新内ホール(旧新内小学校)
北海道上川郡新得町字新内

〈入場料〉

●3日間通し券・3,000円
(すべてのプログラムに入場出来ます。)

●1日券・2,000円

●1プログラム券・1,500円

*パーティーは別料金(1,000円)

*前売り券は発行いたしません。

当日、会場の受付でお求めください。

*パーティーを除くすべてのプログラム
高校生以下無料。

■お問い合わせ

☎090-8278-6839(藤本)

☎090-8708-6334(芳賀)

■会場直通(会期中のみ)

☎0156-64-3161(新内ホール)

<http://kuusonomori.com/>

★ボランティアスタッフ募集! ★出店者も募集しています。

主催●SHINTOKU空想の森映画祭実行委員会

実行委員長 藤本幸久

共催●北海道新聞帯広支社

後援●山形国際ドキュメンタリー映画祭

新得町・新得町教育委員会

協賛●東京平和映画祭



第24回
SHINTOKU

空想の森映画祭

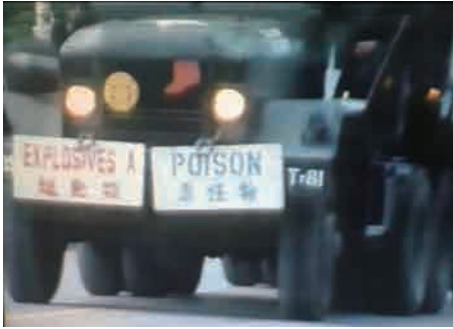
1日目●14日(土) 沖縄の日 OKINAWA DAY

●10:00~15:00

ドキュメンタリー+監督トーク

森口豁監督と見る、語る沖縄

第一部●10:00~12:00 『毒ガスは去ったが……』



1971年「ドキュメント71」30分

沖縄本島の真っ只中、嘉手納弾薬庫に、1万2,000トンものサリンやVXガスなどの毒ガス兵器が貯蔵されていたことが発覚、日本復帰を間近にした沖縄住民を恐怖に陥れた。米軍はその全てを太平洋のジョンストン島に移すことになったが、撤去作業は住民を危険にさらすことに……。沖縄の「長い夏」の一部始終をカメラが追った。

『沖縄 15年目の夏~基地の村の若獅子たち』



1987年「ドキュメント87」30分

村の面積の半分近くを米軍基地に取られたままの読谷村。村長を先頭に反戦平和の思いが渦巻く。この村で和太鼓に励む若者3人にカメラが密着、日本とアメリカの狭間で揺れ動く彼らの想いを聴く。日本「復帰」から15年、彼らにとって「日本とは?」「沖縄とは?」。

第二部●13:00~15:00 『乾いた沖縄』 1963年 『ノンフィクション劇場』30分



沖縄の島々を襲った80年ぶりの大旱魃。電気も水道もない小さな島では、女たちが生きるために不可欠な水を求め、日夜枯れた井戸を困んだ。沖縄をテーマに30本のドキュメンタリーを手掛けた森口作品の第1作。自らカメラを回したこの作品は、テレビドキュメンタリーの原点とも言われる「幻の名作」。

『一幕一場・沖縄人類館』



1978年「ドキュメント78」30分

基地の町・コザ(現在の沖縄市)に住む高校生、内間安男を25年にわたり追った「沖縄の十八歳」シリーズの第3作。待ち望んだ日本「復帰」から6年、広大な基地を残したままの「復帰」に、内間は失望する。「騙した側より、騙されたオレたちの方が悪いのだ」。信じた「祖国」に裏切られた一青年の思いとは?。



【森口豁・もりぐち かつ】

1937年東京生まれ。私立大を中退して1959年、米軍政下の沖縄に移住。琉球新報社会部記者を経て日本テレビ「沖縄特派員」に。1974年、東京転勤後も足繁く沖縄に通い、ドキュメンタリーを作り続けた。93年、退職しフリージャーナリストに。「ひめゆり戦史」「島分け 沖縄旭島島哀史」などでテレビ大賞優秀個人賞を受賞。著書に「最後の学徒兵 BC級死刑囚 田口泰正の悲劇」(講談社刊)「だれも沖縄を知らない27の島の物語」(筑摩書房刊。沖縄タイムス出版文化賞)など多数がある。

過疎に悩む八重山諸島鳩間島のルポルタージュ「子い 沖縄孤島の歳月」(凱風社刊)は、「瑠璃の島」「光の島」などのタイトルで連続テレビドラマや連載マンガになった他、劇団文化が舞台化し話題を呼んだ。近著に写真集「さよならアメリカ」(未来社)、フォトエッセイ「米軍政下の沖縄 アメリカ世の記憶」(高文研)がある。現在「沖縄を語る一人の会」主宰。

●15:30~16:00

ドキュメンタリー+監督トーク

『ドローンで見る沖縄の基地』 解説:影山あさ子



高江(北部訓練場)のN1ヘリパッド

九州から台湾の間に連なる琉球弧の島々で、日本とアメリカの軍事基地建設がすすんでいる。その現状を小型無人機・ドローンが、映しとってゆく。解説は、この15年、辺野古や沖縄を撮り続ける影山あさ子監督。

影山あさ子監督

●16:00~17:30

講演

講演●山城博治 沖縄平和運動センター議長

「琉球弧の軍事化をめぐって
—奄美・沖縄・宮古・石垣・与那国—」



奄美大島、宮古島、石垣島など南西諸島で強行されている自衛隊配備。名護市辺野古の米軍新基地建設だけでなく、南西諸島の「軍事要塞化」を進めさせてしまえば、「戦争できる国」づくりという危険な方向に日本はますます舵を切っていくことになる。

●19:30~21:00

ライブ

宮古民謡ライブ●川満健功がんずう三線教室



宮古諸島に伝わる民謡を、三線や太鼓の音色にのせてお届します。宮古の民謡は、沖縄の他の島々とは違う独特の調べを持ち、宮古独自の言葉(宮古語)で歌われます。幕開けの勇壮な「とうがにあやく」から、恋歌の「伊良部とうがに」、締めめのクイチャー踊りまで、宮古民謡の世界を堪能してください。川満健功(宮古民謡協会元会長、師範)と門下生の唄三線に、琉球古典太鼓の第一人者である松堂亨(徳八流太鼓)の太鼓が華を添えます。

2日目●15日(日) **アジア先住民の日** Indigenous peoples of Asia

●10:00~12:00

ドキュメンタリー

『神聖なる真実の儀式』 Basal Banar - Sacred Ritual of Truth



アオレイオス・ソリト監督作品
パラワン・フィリピン
2002年/120分

フィリピン先住民の血を引く監督が故郷パラワン島で神聖なる儀式や日常生活をカメラにおさめる。多国籍企業などの介入により生活が破壊されていくことへの怒りが画面にみなぎる。

監督:アオレイオス・ソリト Auraeus Solito 1969年、マニラ生まれ。演劇人、映画監督であり、先住民の権利回復運動に携わる。南パラワンの先住民パラワンの出身。先祖代々受け継がれてきた土地以外で生まれた最初の先住民のひとり。

●13:00~14:38

ドキュメンタリー



『これぞ人生、これぞパンツァーの民』

As Life, As Pangcah

マーヤウ・ビーホウ監督作品
台湾・アミ族/1998年/28分



『酒祭の男たち』
Malakacaway
The Rice Wine Filler

マーヤウ・ビーホウ監督作品
台湾・アミ族/2009年/70分

アミ族の長老の世界を紹介する初期の短編と、大酒飲みの通過儀礼を担う青年たちの伝統継承を描く長編。現代台湾に生きる先住民のジレンマや本音が語られる。

監督:馬躍比吼(マーヤウ・ビーホウ) Mayaw Biho

1969年、花蓮生まれ。先住民・アミ族出身のドキュメンタリー監督。先住民の文化、歴史、暮らしをテーマに作品を制作する先住民テレビ局の代表。2012年には中華民国立法委員選挙に出馬。「ドキュメンタリーは私のやさしい武器だ。」

ドキュメンタリー

民族文化映像研究所のアイヌ民族シリーズ

●15:00~15:33 『アイヌの結婚式』 民族文化映像研究所 1971年/33分



1971年4月北海道二風谷でアイヌ式の結婚式が行われた。明治以降内地日本人の進出と圧迫でアイヌの生活様式は著しく変容を続けた。まったく見られなくなっていたアイヌの結婚式がひとりのアイヌの思いと決意で復活した、その記録。

●15:35~17:18 『イヨマンテ〜熊送り』



民族文化映像研究所
1977年/103分

イ(それを)、オマンテ(返す)という名のアイヌの儀式。熊の魂を神の国へ送り返すまつり。アイヌの生活様式は変容し失われつつあったが、アイヌの青年たちの熱意に支えられて、儀式は復活した記録。アイヌの深い精神性を垣間見られる作品。

●17:45~18:36 『沙流川アイヌ・子どもの遊び』



民族文化映像研究所
1978年/51分

昨今のアイヌの子どもはアイヌの遊びを知らない。遊びには生活に必要な技術や自然観が息づいている。二風谷のアイヌ萱野茂さんはそのことを憂い自分が子どもの頃に覚えた遊びを伝える。

●18:40~19:24

『沙流川アイヌ・子どもの遊び—冬から春へ』



民族文化映像研究所
1984年/44分

アイヌの子どもたちは、遊びの中で動植物の名を知り性質を学ぶ。自然との付き合い方を感じ取っていく。そして、アイヌの精神文化の世界に誘われて行く。

●20:00~21:30

ドキュメンタリー+監督トーク

『森の守り人〜イサムの場合〜』 中井信介監督作品
ウータン・森と生活を守る会
2019年/53分



中井信介監督

インドネシアの環境NGO「FNP」は、スタッフの多くが過去に違法伐採などの森を破壊する仕事をしてきた青年たち。その中の1人イサムは、子育てに悩むシングルファーザー。山火事やアブラヤシ農園開発などの問題が山積する中、かつて自分たちが伐採していた森の再生を夢見て木を植え続けている。

3日目 ● 16日(月・祝) **共働学舎の日**
 ● 09:30~12:00 ドキュメンタリー+監督トーク

映画 ● 『**空想の森**』 田代陽子監督作品
 2008年 / 129分 / 森の映画社



日々の暮らしの中には、言葉にすると陳腐になってしまう感情があります。何でもない日常が妙に愛おしく、夢中で撮影した北海道新得町に暮らす人たちの物語です。

田代陽子監督

● 13:00~14:57 ドキュメンタリー

『**アラヤシキの住人たち**』 2015年 / 117分
 本橋成一監督作品



北アルプスの山裾、長野県小谷村。車の通わない山道を1時間半歩いたところに真木共働学舎はある。生きることの根源的な意味を考える「共に働く学び舎」として創設され、今の社会に肉体的・精神的な生きづらさを抱える人も、そうでない人も、だれもが固有に持つそれぞれの能力を尊重しあい暮らしている。春・夏・秋・冬…40年。くり返されるその営みは、誰にもある生きものとしての人間の時間を思い起こさせる。

● 15:00~16:00 講演

講演 ● **宮嶋信** (真木共働学舎代表)

新得にもある共働学舎の根拠地である、長野県小谷村の共働学舎の生い立ち。今の社会の中でスムーズに生きてゆけない人と暮らしてゆく生活。人はみな、それぞれそれぞれ違った使命を与えられています。誰一人同じ人はいない。教育は不便なるが良し。小谷村で唯一夏でも車が入らぬ山村・真木地区。そこでのアラヤシキの住人たちの生き方、暮らしぶり。



● 16:30~17:30 講演

講演 ● **宮嶋望** (新得共働学舎代表)

一人一人の可能性を引きだし、土地の個性を生かすものづくり
 人も土地もそれぞれ個性を持っている。その可能性を引き出すことで社会に役立てることが出来れば人も土地も輝けるだろう。人も土地も可能性を内在させている。その可能性を見つけ出すことがこれから求められているのではないだろうか。



● 17:30~18:00 コンサート

宇井ひろしミニ・コンサート



宇井ひろし 歌・ギター・アコーディオン
 1980年より新得町にて農業を始め、有機農業を軸に、海外や国内の若者との交流を深めている。生活から生まれる歌をコンセプトに、国内外で演奏を重ねる。最近アコーディオンを弾くことに熱中。
 *代表曲 〈青虫の歌、最後のシマフクロウ、クマゲラ〉

さよならパーティー ● 19:00~ (参加費 ● ¥1,000)

★今年も十勝・新得の美味しいものがいっぱい立食パーティー、お楽しみに！



すべては夢見ることからはじまった

SHINTOKU 空想の森映画祭は、今年で24回目……

*写真は2004年6月shintoku空想の森映画祭より

[アクセス]-----

- 帯広空港より～まずJR帯広駅まで連絡バスで40分帯広駅からJRで約1時間
- 千歳空港より～JR特急南千歳乗換約2時間
- 千歳空港より～道東道経由・トマムICから一般道、約2時間
- 札幌から～JR特急で約2時間、車で約3時間半(高速経由で約2時間半)



★JR新得駅からは約10km、歩くと2時間程かかります。JRで新得に到着された方は0156-64-3161(会場直通)まで電話ください。タイミングが良ければ、他の誰かの車に便乗できるかも知れません！